

事務事業評価シート

評価対象年度 平成 23 年度

【事務事業の基本的事項】

事務事業名	奨学資金貸付金							
担当課係名	教育指導課	課	-	係	作成者	渡辺久信		
総合計画での位置づけ	施策の大綱	明日を担う人材を育む教育文化のまち			総合計画のページ			
	基本計画	学校教育の充実と教育環境の整備						
	主要施策	奨学資金貸付事業				94		
予算費目	一般	会計	10款	教育費	1項	教育総務費	3目	教育総務費
事業期間	平成	年度	～	平成	年度	新規/継続の区分	継続	
性質区分	<input checked="" type="checkbox"/> 市民サービス <input type="checkbox"/> 公共事業 <input type="checkbox"/> 施設維持管理 <input type="checkbox"/> 補助金 <input type="checkbox"/> 内部管理							
根拠法令等	仙北市奨学資金条例、仙北市奨学資金に関する規則							
事務区分	<input checked="" type="checkbox"/> 自治事務 <input type="checkbox"/> 法定受託事務							
運営方法	<input checked="" type="checkbox"/> 直営 <input type="checkbox"/> 直営(一部民間委託) <input type="checkbox"/> 民間委託(全部) <input type="checkbox"/> 補助							

【事務事業の実施内容】

事業の対象 (誰のため・何を)	義務教育終了の仙北市民の子弟
事業の目的・意図 (どういう状態にしたいのか)	心身共に健康で学業成績優秀な者が上級学校に在学する場合において、経済的理由で修学困難な者に対して学資金を貸付けする。
事業の内容 (どのような業務、活動を行うのか)	学資金の貸付

【事務事業の推移】

		項 目	単位	23年度実績			
効果	活動指標	新規貸付者	目標	人	12		
			実績	人	12		
			達成度	%	100.0%		
	成果指標	新規貸付者/申込者(%)	目標	人	12		
			実績	人	12		
			達成度	%	100.0%		
投下コスト	項 目		総事業費	23年度決算額(千円)			
	事業費(人件費を除く)(A)			14,802			
	人 件 費 (B)		—	2,544			
	職 員 数		—	0.30			
	職 員 平 均 人 件 費		—	8,479			
	(A)+(B) 投下コスト		—	17,346			
	財源内訳	国 庫 支 出 金			0		
		県 支 出 金			0		
		地 方 債			0		
		そ の 他			0		
		一 般 財 源			17,346		
単位コスト	活動指標1単位当たりコスト(円)		—	1,445,500			
	市民1人当たりのコスト(円)		—	583			

【事務事業の今までの成果】

合併以来一般会計においては55人、田沢湖町奨学金貸付基金で69人、角館町育英会で38人の新規貸付を実施している。

【事務事業を取巻く環境】

国・県・他自治体の動向	他市町村においても独自の奨学資金制度を実施している。
事業に対する市民の意見 (事業に対する期待、要望、苦情等)	経済状況が悪化する中、上級の学校を目指す学生の支援として重要である。

【一次評価】

判定	事業の方向性	判定に至った理由
C 2	A 現状のまま継続（実施）	自動判定結果は「A」であるが、平成24年4月1日より条例及び規則を改正して、仙北市育英奨学資金として基金会計へ一本化して実施するため、C2の大幅な見直しの上で継続と判断した。（H24年度より一般会計から基金会計へ。）
	B 1 見直しの上で継続（拡大）	
	B 2 見直しの上で継続（手段改善等）	
	B 3 見直しの上で継続（縮小）	
	C 1 大幅な見直しの上で継続（拡大）	
	C 2 大幅な見直しの上で継続（手段改善等）	
	C 3 大幅な見直しの上で継続（縮小）	
	D 休止・廃止（統合を含む）を検討する事業	
	E 終了（完成及び目的を達成し終了した事業）	

※一次評価の判定がB～Dのときは、下記に必ず記入すること。

【具体的な今後の取組内容（改善の方向性、対象、意図、手段等について記載すること。）

平成24年4月1日より仙北市育英奨学資金として基金会計へ一本化して実施する。

【二次評価】

判定	判定に至った理由
E	平成24年度から仙北市育成奨学資金として基金会計へ一本化し、事業統合。

